

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
54 トト 豊富 エベコロベツ (豊富町)	町 駅 川	イペコロペツ	ipe-kor-pet	食物(魚)・を持つ・川	パンケ(下の)とペンケ(上の)二つのエベコロベツ川が流れており、語義は左記のとおり。やちの中の泥川で、乗って行ったタクシー運転手も余り魚はいませんがねという。町名はエベコロベツの意識だという。	山 田	B	-
55 トニ 豊似 (広尾町)	地区 川	トイオイ *トヨイ	toy-o-i	食土有る 土・ある・もの(所、川)	地名ではチエ・トイ(食べる・土)を略してトイということが多い。 ----- 泥水ばかり出る川のためともいう。	松 浦 山 田	C	? いずれにせよ「toy があった」 ことが名の元と思われる。 -
	山岳	トイウンイ *トユニ	toy-un-i	土・ある・所	豊似という当て字が気にかかる。あるいはこのようにも呼んでいて、それから「似」の字が当てられたのかもしれない。	山 田		
56 トヒラ 豊平 (札幌市)	地区	トウイピラ	tuy-pira	土崩平 崩れる・崖	-	松 浦 山 田	B	- いずれにせよ「ガケが崩れた」 所が名の元と思われる。 -
	川	トウイエピラ	tuye-pira	潰崖 (川水が)崩す・崖	豊平橋のやや上流の支流に崖があり、しばしば水のために潰裂されたため。 古くは豊平川(豊平よりの分流か?)が若干屈曲して川岸を削って小崖を作っていた所があって、大水の時にはそれが崩れたのでこの名がついたのであろう。	永 田 山 田		
57 トペナイ 豊部内 (江差町)	川	トペニナイ	topeni-nay	^{カエデタニ} 楓 溪 {イタヤカエデ・川}	楓の樹が多かったため。 トペニは to-pe-ni (乳・汁・の木 イタヤの木)。イタヤの幹に傷をつけて、乳汁のような樹液を採り、飲んだり調理用に使った。	永 田 山 田	A	両説とも同趣旨で、「イタヤカエデ」があったことが、名のもとになったものと思われる。
		トペナイ	" to-pe "-nay	イタヤカエデの・川	地名では ni (木)を省くことが多い。あるいはこのように呼ばれていて、それから豊部内となったのかもしれない。	山 田		
58 トリトウシ 鳥 通 (釧路町)	地区	トゥリトウイエウシ *トゥリトウイエウシ	turi-tuye-us-i	^{タルキ} ^キ 榎を研る所 舟の棹・を切る・いつもする・所	舟行のよく行われた所で、棹に都合のいい木が生えていた所が地名となったものらしい。	永 田 山 田	B	-
59 トリブシ 取布朱 (陸別町)	川	トゥレブウシリクン ペツ *トゥレブシリクン ペツ	turep-us-rikunpet	オオウバユリ・群生する ・陸別川(支流)	-	山 田	B	-
60 トワリ 登和里 (朝日町)	地区 川 山岳	トゥワラ	tuwar	水がぬるい	-	山 田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
61 トンベツ 頓別 (浜頓別町)	地区 川	トウンベツ	to-un-pet	湖・の(に入る)・川	頓別川は流長 74 キロの大河で、その川口の所に北側の大きな湖(クッチャロ湖)の水が流れ込んでいる。	山田	A	

【ナ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ナイエ 奈井江 (奈井江町)	町 川 駅	ナイエ	naey または nae	谷川 {?}	両崖高き川をナイエという。 上川アイヌは谷をナイエといい、川をナイという。	永田	C	? -
		ナイエ	naye	その川	よく分からないが、この形が地名に残ったものか。	山田		-
2 ナイタイ (上士幌町)	川 山岳	ナイタクペ	nay-ta-yupe	川鮫 {川・?・チョウザメ}	川鮫多し。 ナイタイベの形は諸地にあるが、どれも語義がはっきりしていない。	永田 山田	C	? -
3 ナイタイ 内大部 (旭川市)	川	ナイタクペ	nay-ta-yupe	川鮫 {川・?・チョウザメ}	この川に鮫がいたわけではない。本川の絶崖の下で鮫を捕り、舟でこの川へ運び陸に揚げたため。	永田	C	? -
		ナイエタイエペツ	nay-etaye-pet	沢の・頭がずっと奥へ行っている ・川	-	知里		-
4 ナイポ 苗穂 (札幌市)	地区 駅	ナイポ	naypo	小さい川	苗穂駅の北にあった伏籠川の東支流ナイポが名のもと。po は子供で、地名の中ではよく指小辞として使われる。つまり小さい川の意。	山田	A	
5 ナカウタ 中歌 (増毛町)	地区	オタノシキ	{ ota-noski }	砂浜・の中央	海岸段丘の下の浜にある土地の名。オタ(ota 砂浜)は渡島や後志海岸ではよく「歌」と訛っているが、ここまで来ても同じ訛であった。	永田 山田	B	-
6 ナカガリ 中川 (中川町)	町 駅	-	-	-	中川郡は天塩川中流の意。中川町はその一番下流部で明治 39 年中川村ができたのが始まり。旧名は誉平(ぼんぴら)で、市街の西方の川崖の名(pon-pira 小さい・崖)が元。	山田	A	和名と思われる。
7 ナカサツナイ 中札内 (中札内村)	村	-	-	-	札内川筋の中流にあるので、この名で呼ばれた。	山田	A	「札内」参照。
8 ナカシベツ 中標津 (中標津町)	町	-	-	-	昭和 21 年標津村から分村して、中標津村と称し、同 25 年町制となった。中心市街は標津川中流の南岸。	山田	A	「標津」参照。

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
9 ナカソハツ 中頓別 (中頓別町)	町	-	-	-	大正10年頓別村から分村、昭和24年町制施行。町内に上頓別、小頓別等もあるが、中頓別の市街が中心なのでこの称を採ったのであろう。	山田	A	「頓別」参照。
10 ナカラノ 中富良野 (中富良野町)	町	-	-	-	富良野原野の中心に位置することにより命名。	地名大辞典	A	「富良野」参照。
11 ナガヌ 長沼 (長沼町)	町	タンネト	tanne-to	長い・沼	松浦図で見ると旧夕張川筋は二つの大沼になっていて、上にあったタンネトウにちなみ名づけられたもの。	山田	A	
12 ナエ 七飯 (七飯町)	町 駅 山岳	ナアナイ	{ naa-nay }	多く溪沢 {もつと・沢}	ナアとは幾等もという意味で、この辺に溪沢が沢山あったためという。	上原	C	? ?
		ヌアンナイ	nu-an-nay	豊沢{?}	この地名は今の七重浜に注ぐ石川の川尻に付けられた名。	永田		? -
13 ナヨ 名寄 (名寄市)	市 川 駅	ナイオロプトウ *ナヨロプトウ	nay-or-putu	川・の所・の口	松浦氏天塩日誌を参照すると、名寄川はナイ(nay)、あるいはナヨロ(nay-or)と呼ばれていたものらしい。	山田	B	-
14 ナンホロ 南幌 (南幌町)	町	-	-	-	広い幌向地区の南部という意らしい。	山田	A	「幌向」参照。

【二】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ニイカプ 新冠 (新冠町)	町 川 駅 湖 山岳	ニカプ	ni-kap	ニレ 楡皮	この川筋に木の皮剥が多く有ったため。	松浦	B	-
				木の・皮	元来ピボク(pi-pok 岩下)であったが、文化6年新冠に改称された。この地のアイヌが楡皮(ニカプ)の衣をきていて、その色が茶褐色を帯び、他の地のアットゥシと色を異にしていたため。 ピボクは川尻西岸の判官館と称する山の大きな岩からついた名であらう。	永田 山田		-
2 ニイトコロ 仁居常呂 (置戸町)	川	ニオトコロ	ni-o-tokoro	樹木多き常呂川 漂木・多くある・常呂川	立木が多い場合は、普通ニウシ{ ni-us }という。 {常呂については別掲。}	永田 山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
3 ニイナイ 新内 (新得町)	地区	ニウンナイ	ni-un-nay	木が・ある・川	-	山田	B	-
4 ニウシペツ 入志別 (深川市)	川	ニウシペツ	ni-us-pet	木が・群生する・川	昔の川口の辺に樹林があったのであろう。	山田	B	-
5 ニオイ 荷負 (平取町)	地区	ヌイエ	{ nuye }	シシュウ 刺繍、彫刻	ヌイ。この上の山に雑木が多く有り、遠目に見ると彫刻でもしたように見えるためという。	松浦	B	?
	川	ニオイ	ni-o-i	樹木多き所 漂流の・ごちゃごちゃある ・もの(川、所)	知里博士は、立木の多いのはニウシ(樹木・群生する)で、ニオは「地面から離れた木、木片がごちゃごちゃある」と解すべきとされていた。	永田 山田		
6 ニキ 仁木 (仁木町)	町 駅	-	-	-	徳島県からの入植者仁木竹吉の姓を採ったもの。	山田	A	和名と思われる。
7 ニクラ 仁倉 (佐呂間町)	川	ニクラアン *ニクラン	nikur-an	樹林 林が・ある	ニクラはニクリアンの急言。ニクラは墓所の意味で、ここに墓所があったため付会したもの。 {佐呂間町史は「川であるから、おそらく nikur-an-pet(nay)のペツ(ナイ)を略したものと思われる。}と書いている。}	永田 山田	B	-
8 ニコロ 仁頃 (北見市)	川	ニコロ	ni-kor	樹木ある沢 木・を持つ	-	永田 山田	C	諸説あり特定しがたい。
	山岳	ニクル	nikur	林	-	山田		
		ニオロ	ni-or	木・の所	松浦図はニヨロと書いた。誤記でなければこう解される。			
9 ニサマ 似峡 (朝日町)	川	ニシサムオマブ *ニッサモマブ	nis-sam-oma-p	雲・の側・にある・もの(川)	朝日町役場の知らせではニサマップで雲の生ずる所であるとのことであった。	山田	C	-
	山岳	ニサム	ni-sam	木・の側	あるいは平凡にこうとも読める。			-
10 ニシオコッパ 西興部 (西興部村)	村	-	-	-	大正14年興部村から分村してこの称を用いた。興部村の西半(山側)の地なのでこの名が考えられたのだろう。	山田	A	「興部」参照。

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確拠	コメント
11 ニシキオ 錦岡 (苫小牧市)	地区	ニシタフ	ni-sitap	樹木収縮する所{?}	{浜風が強いところなので、木の生育が一方に片寄って成長しているという。}	永田	C	?
	駅	ニウシタフ	ni-us-tap	木・多い・山	旧名 ^{ニシキタフ} 錦多峰。音だけなら、このようにも聞こえるが。	山田		-
		ニシタフ	nis-tap	雲の・大きな山	語源はこのように思われるが、確かではない。	苫小牧市史		?
12 ニシチャ 西舎 (浦河町)	地区	ニチャ	ni-ca	木・を ^キ 伐る	意味がはっきりしないが、土地のアイヌ系古老の話ではニチャが訛った形だとも聞いた。	山田	C	-
13 ニシハツ 西別 (別海町)	地区	ヌウシペツ	nu-us-pet	豊漁・ある・川	潤沢な川。この川鱒鮭その外雑魚潤沢なため。	上原	A	土地柄、魚が沢山獲れるので「豊漁な川」と解するのが自然と思われる。
	川				豊漁川。 {オホーツク沿岸はサケ漁で賑わうところだが、中でも西別川はサケの遡上が多い川だという。}	永田 山田		
	山岳				川上に湯の如き温水が噴出するため。	松浦		
14 ニジハツ 虹別 (標茶町)	地区	(西別参照)	(西別参照)	(西別参照)	西別川筋の交通の要衝であったので、西別と呼ばれていたが、川下の方も西別で呼ばれていたため、それと区別するために違った字を当てて虹別としたのではなかろうか。	山田	A	「西別」参照。
15 ニセイチャロマップ (上川町)	川 山岳	ニセイチャロマップ *ニセイチャロマップ	nisey-car-oma-p	峡谷の・口・にある・もの(川)	層雲峡の大函のすぐ上の所で、東から来て石狩川に入る川の名。	山田	A	
16 ニセイノシキオマップ (上川町)	川	ニセイノシキオマップ	nisey-noski-oma-p	峡谷・の中央・にある・もの(川)	石狩川上流、ソーウンペツ川の上に、ニセイケシオマップ川(峡谷・の末端・にある・もの(川))とこの川が流れ込んでいて、所々に大崖が並んでいる。	山田	A	
17 ニセウ 仁世宇 (平取町)	地区	ニセウ	nisew	ドングリ	この辺にドングリの実が沢山あったため、アイヌはこれを拾収して食料にした。	永田	B	-
18 ニセコ (ニセコ町)	町 駅	-	-	-	元来は狩太。 目の前の名山の名{ニセコアンヌプリ}を採ってニセコ町と改名したのであろうか。	山田	A	「ニセコアンヌプリ」参照。
19 ニセコアンヌプリ (倶知安町)	山岳	ニセコアンヌプリ	" nisey-ko-an " -nupuri	ニセコアンペツ川の・山	川の上にある山なので、川名によって呼ばれたものであろう。ニセコアンペツ川は「絶壁・に向って・いる・川」(知里博士見解)か「峡谷・に・ある・川」の意味だろう。	山田	A	

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
20 ニタ 仁多 (弟子屈町)	地区 山岳	ニタツオロオマフ *ニタトロマフ	nitat-or-oma-p	やち 湿地・の所・にある・もの(川)	-	永田 山田	B	-
21 ニタナイ 仁達内 (浜頓別町)	地区	ニタツナイ	nitat-nay	湿地・川	{そのとおりの所だという。}	山田	A	
22 ニツシヨ 日勝 (日高町)	峠	-	-	-	日高町からこの峠を越えて十勝の清水町に通じている。 日高、十勝の一字ずつを採った名らしい。	山田	A	「日高」、「十勝」参照。
23 ニニシベツ (阿寒町)	地区	ニヌムウシペツ *ニヌムシペツ	ninum-us-pet	クルミ・多い・川	語義不明。土地のアイヌ古老八重九郎翁(故)は、このように昔の人は言っていたと語られた。	山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		ニウシペツ	{ ni-us-pet }	木の茂っている川 (木・群生する・川)	現地は多くの ^{カン} 灌木が茂っている。	阿寒町 百年史		-
24 ニフタニ 二風谷 (平取町)	地区 ダム	ニフタイ	nip-ta-i ?	柄・を作った・所 ?	昔、ここに細工の上手なアイヌがいて、木太刀を作って、その柄に金物を三ツ付けて奉ったという。 永田地名解も閉口して?の印をつけただけ。	松浦 山田	C	? ?
25 ニハツ 仁別 (北広島市)	地区	ニオペツ	ni-o-pet	寄り木が・ごちゃごちゃある・川	-	山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		ニウンペツ	ni-un-pet	木・のある・川	-			-
26 ニペソツ (新得町)	川 山岳	ニペシオツ	ni-pes-ot	木が・下る・いつもする	流木がよくある川の意でもあったか。	山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		ニペソツナイ	nipes-soso-ot-nay	シナの木 ^ハ の皮・を剥ぐ ・いつもする・川	{ニペソツ川の川口から流域一帯にはシナの木が多くあったという。また、この川を水源とするニセイ山、ニペソツ山は丸山(火山)に近いところにあることから、シナの内皮を温泉でほぐしていたとも想像される。}			-

【又】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ヌカナイ 糠内 (幕別町)	地区 川	ヌカナイ	nukan-nay	小石川{?}	ヌカンは細小の意味で、小石の意味に用いられた。	永田	C	? -

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
2 ヌカピラ 糠平 (上士幌町)	地区 湖山岳 ダム 温泉	ノカピラ	noka-pira	人の姿の崖 形像の(ある)・崖	その崖は人造湖の中に沈んだという。	駅名 山田	B	?
3 ヌカピラ 額平 (平取町)	川 山岳	ノカピラ	noka-pira	形像の(ある)・崖	沙流川本流と合流点東岸上手に崖があって、その上の部分に半円形の形像が見える。文化神オキクルミの妹が天に上る時に忘れていった箕だという。それでムイ・ノカ(箕・の形像)と呼ばれているとの事。アイヌ時代の箕(muy)は、だいたい半円形であった。 {間宮図(1821年)、高橋図(1826年)とも「ヌカピラ」となっているという。}	山田	B	?
4 ヌキハツ 貫気別 (平取町)	地区 川 山岳	ヌキベツ	nupki-pet	濁り水・川	ヌツケベツ。ヌツケは濁の意味。 {雨が降ると濁る川だという。}	松浦 山田	B	-
5 ヌサマイ 幣舞 (釧路市)	地区	ヌサオマイ	nusa-oma-i	ヌサ 幣場・ある・所	ヌサは神祭りのための木幣(イナウ)を立て並べた幣場で、あの丘の上にその祭りの場所があって、たぶん海の幸を祈った所であったろう。	山田	B	-
6 ヌキハツ 貫気別 (豊浦町)	川	ヌキベツ	nupki-pet	濁水の・川	やち水の流れる川だったので、その称があったのであろう。	山田	B	-
7 ヌノヘ 布部 (富良野市)	地区 川 駅 山岳	ヌムオツペ *ヌモツペ	num-ot-pe	果実ある所 クルミ・多い・もの(川)	ヌムは果実であるがクルミを指すことが多い。	永田 山田	B	-
8 ヌピナイ (大樹町)	川	ヌピナイ	nupi-nay	その野原の・川	-	山田	C	-
9 ヌマウシ 沼牛 (幌加内町)	地区 川	ヌムウシホロカナイ *ヌムシホロカナイ	{ num-us-horka -nay }	果実・の多い・後もどりしている ・川	-	駅名	C	-
		ヌマウシホロカナイ	numa-us-horkanay	毛・多く生えている ・幌加内川(支流)	この方が原音に近いのかも知れない。その沼に水草が生えていたのか、それでそれをいったものかとも考えて来た。	山田		-
10 ヌマオロ (標茶町)	川	ヌマオロ	numa-or	毛髪ある(生ずる) 毛・の所	この川口に毛の如き藻有り。 他地でも水藻をヌマ(毛)に例える地名がある。	松浦 山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
11 ヌマタ 沼田 (沼田町)	町 駅	-	-	-	開拓者沼田喜三郎の姓をとって名付けたのだという。	山田	A	和名と思われる。
12 ヌマイ 沼前 (積丹町)	地区 岬	ノオマイ	nona-oma-i	海栗多き所 ウニ・ある・所	{磯にはノナ(エゾムラサキウニ)がたくさんついているという。}	永田 山田	B	-

【ネ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ネシコ 根志越 (千歳市)	地区	ネシコウシ *ネシコウシ	nesko-us-i	クルミの木が・群生する・所	{根志越橋より少し下流のところに、昔、家が三軒あり、ネシコシと書いていて、クルミが川のふちに10本以上あったという。}	山田	A	
2 ネッ 熟郭 (黒松内町)	地区 川 駅	メブ	mep	寒き所{?}	-	永田	C	?
		ネブ	nep	漂木	nep は net と同じ。	山田		-
		クンネネッペツ	{ kunne-net-pet }	黒い・漂木の・川	その一部をとったものである。	駅名		-
3 ネム 根室 (根室市)	市 駅	ニイモヲロ	{?}	静にて樹木の有る	-	上原	C	?
		ニノオロ	{?}	ウニの在る	-			?
		ニモイ	ni-moy	木・湾	往古はここに樹木が沢山あったため。	松浦 山田		-
		ニムイ	ni-muy	木・箕	その海底に神代木が沢山あった。ムイは箕の事だが、箕の形をした湾の意味でもある。	永田		-
		ニムオロ	ni-mu-oro	樹木繁鬱する所 {木・つまる・所}	松前記欄外に桜井家譜を引いて、「慶安元年東夷樹林(ニムオロ)、数無(シコム)と戦ひ、アイヌが大勢死んだ。」と書かれている。アイヌの口碑と同じである。	永田		-
		メムオロオペツ *メモロペツ	{ mem-or-o-pet }	湧壺・そこにある・川 {湧き水・の所・にいつもある・川}	-	駅名		-
		ニムオロ	{ ni-mu-oro }	寄木の詰まる所 {木・つまる・所}	-			-

【ノ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				種別	コメント
1 ノカナン 野花南 (芦別市)	地区 川 駅 山岳 湖 ダム	ノッカアン	notka-an	機弓の糸を置く所 動物を捕る仕掛け弓やワナに つける「さわり糸」・ある	あまり見ない地名の形で、試案とでも見るべきであろう。	永田 山田	C	-
		ノカンナイ	nokan-nay	小さい・川				音だけでいうなら、この訛りであったのかもしれない。
2 ノペレペツ (浜中町)	川	ノクポロペツ	nok-poro-pet	卵の多くある・所 卵・多くある・川	この沢に鴨の卵が多くあるため。	上原 山田	C	? -
		ノケレケペツ	nok-perke-pet	卵・割れた・川	鶴の卵を破らせしため。			-
3 ノサップ 納沙布 (根室市)	地区 岬	ノッサム	not-sam	崎の際 岬・のかたわら	この崎の際に昔からコタンが有ったため。 元来は岬でなく、岬のそばにあったコタンの所の名だったのが、いつの間にか岬の名としても使われたもの。アイヌ語の語尾の子音ムもプ(m・p)も不破裂音で、唇を閉じたままであるためか、よくムがプに訛って残った。	上原 山田	A	
4 ノシャップ 野寒布 (稚内市)	岬	ノッサム	not-sam	崎の際 岬・の側	この崎の際にコタンが有ったため。 ノツ(not)は顎(あご)だが、地名では岬をいう。	上原 山田	C	- 諸説あり特定しがたい。
		ノツエトウ *ノテトウ	not-etu	岬・岬	本名ノツエト。 エトウ(etu)は鼻のことで、地名では岬をいう。	松浦 山田		-
		ノッサウシイ *ノッサウシ	not-sa-us-i	岬・の前・にある・もの	本名ノツサウシ。 ここは山崎の前に平地が突き出ているのでこうも呼んだのであろうか。			-
5 ノダオイ 野田追 (八雲町)	川 山岳	ヌプタイ	nup-tay	野・林	-	永田	C	-
6 ノツケ 野付 (別海町)	地区 岬 湾	ノツケウ	notkew	下顎	昔、ここへ大きな鯨が流れ寄り、その下顎がこの崎となったため。 ノツケウはノツ(not あご)と同じ意味に使う。 {砂州の形状から名付けられたとも思われる。}	上原 山田	B	- 地形から名付けられたと考える方が自然と思われる。
7 ノット 能津登 (寿都町)	地区	ノット	notto	岬	-	永田 山田	B	? -
		ノツ	not					元来のアイヌ語では notto の音があったとは思えない。アイヌ語のノツを和人が発音しやすいうようにノットと呼び、もしかしたら土地のアイヌもそれによって呼んでいたのをそのまま採録したものか。

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
8 ノツカ 野塚 (広尾町)	地区 川 山岳	ヌブカペツ	nupka-pet	野川 {野原・川}	{下流部は、やや平坦な丘陵台地の中を流れているという。}	永田	B	-
9 ノツカ 野塚 (積丹町)	地区	ノッカ	not-ka	岬・上	従来から岬に付けた名。 今の市街地の西側に突き出ている丘陵の先の上をいった言葉だったろうか。	永田 山田	B	-
10 ノツカ 野束 (岩内町)	地区	ヌブカペツ	nupka-pet	野川 野原・川	not-ka「岬の上」と読みたくなるのではあるが、支流の名(pon-nupka、hure-nupkaなど)から見ても野川らしい。	松浦 山田	B	-
11 ノッカマツ (根室市)	地区 岬	ノッカオマブ	not-ka-oma-p	岬上なる所 岬の上にある所	昔、岬の上にアイヌ部落があったとき、この谷川の鮭を捕って岬の上へ運んだという。	永田 山田	B	-
12 ノホロ 野幌 (江別市)	地区 駅	ヌブオロオペツ *ヌボロペツ	{nup-or-o-pet}	野中の川 {野の中・にいづもある・川}	-	駅名		-
		ヌブルオチ	nupur-oci	濁所 {(色が)濃い・いつも...している 所=いつも濁っている所}	ヌブルが地名に使われるのは、川に温泉水が入ったりして、どぎつい色がついている場合で、この辺ではありそうに思えない。	永田 山田	C	?
		ヌブオロ *ヌボロ	nup-or	野の中、所	旧図の中ではノホロ、ノボロ、ノフロのように書かれている。このように呼ばれていたのではなかろうか。	山田		-
13 ノトリ 能取 (網走市)	地区 湖 岬	ノッオロ *ノトロ	not-or	岬の所	もとは岬の辺の土地を呼んだ名であろうが、それが岬名にも湖名にも使われた。普通大きい湖には特別の名がなく、ただト(to湖)と呼んでおり、今能取湖というのは、和人が能取の湖だという意味でつけた名前である。	山田	B	-
14 ノブカ 野深 (浦河町)	地区	ヌブカ	nupka	野原	西岸の河岸段丘上の平坦地がこう呼ばれていて、それから出た地名。 {ヌブカは昔から部落(村)の名であり、野原の上という意味だという。nup-ka(野の上)の形かと思われる。}	山田	B	-
15 ノブカ 信香 (小樽市)	地区	ヌブカ	nupka	野原	-	山田	C	-
		ヌブパオマナイ	nup-pa-oma-nay	野上川 {野の上手にある川}	こうとも呼ばれていたのだろう。	永田 山田		-
16 ノブシャ 信砂 (増毛町)	川	ヌブサムベツ	nup-sam-pet	野傍の川 野のかたわらの川	-	永田 山田	B	-